

第 77 回日本公衆衛生学会学術総会 自由集会
～知ろう・語ろう・取り組もう～
一歩先行く 健やか親子 2 1（第 2 次） 第 4 回報告

研究協力者 秋山 有佳（山梨大学大学院総合研究部医学域社会医学講座）
研究分担者 上原 里程（京都府立医科大学大学院医学研究科地域保健医療疫学）
研究代表者 山縣 然太朗（山梨大学大学院総合研究部医学域社会医学講座）

本研究班では、毎年秋に開催される日本公衆衛生学会学術総会の際に、「健やか親子 2 1」に関する自由集会を平成 13 年より毎年開催してきた。平成 27 年度 4 月より新たに「健やか親子 2 1（第 2 次）」が開始されたことに伴い、自由集会でも新たに「～知ろう・語ろう・取り組もう～一歩先行く 健やか親子 2 1（第 2 次）」と題し、第 2 次の取組について知り、語り合う機会とすべく当集会を企画し、今回はその 4 回目であった。

今回のテーマは、「健やか親子 2 1（第 2 次）の現状と中間評価に向けて新たな指標を考える」とし、来年度に中間評価を迎える「健やか親子 2 1（第 2 次）」の主な指標の第 2 次開始以降の動きと現状を紹介し、中間評価後に新たに組み込む課題について議論することを目的とした。

今回の参加者は 32 名であり、参加者は「健やか親子 2 1（第 2 次）」の現状に熱心に耳を傾け、その後のディスカッションでは新たな指標として組み込むべき課題について活発な議論が交わされていた。参加者は大学関係者、行政、企業、医療関係と幅広く、最後に行われた議論の結果発表では様々な意見が出され、「健やか親子 2 1（第 2 次）」の中間評価後の新しい課題に関する検討にとって有益な会となったと考える。

A. 目的

本研究班では、毎年秋に開催される日本公衆衛生学会学術総会の自由集会に、「健やか親子 2 1」が開始された平成 13 年より「知ろう・語ろう・考えよう！ “一歩先行く” 健やか親子 2 1」と題する集会をシリーズ化し毎年開催してきた。平成 27 年度からは「健やか親子 2 1（第 2 次）」が開始されたことに伴い、自由集会でも引き続き「健やか親子 2 1」に関する情報の共有および意見交換ができる場を設けることとし、新たに「～知ろう・語ろう・取り組もう～一歩先行く 健やか親子 2 1（第 2 次）」と題した集会を開催した。

今年度は、その第 4 回であり、「健やか親子

2 1（第 2 次）の現状と中間評価に向けて新たな指標を考える」と題し、来年度に中間評価を迎える「健やか親子 2 1（第 2 次）」の主な指標の第 2 次開始以降の動きと現状を紹介し、中間評価後に新たに組み込む課題について議論することを目的とした。

本稿では、平成 30 年 10 月に実施した第 77 回日本公衆衛生学会学術総会における自由集会について報告する。

B. 方法

本自由集会は、平成 30 年 10 月 24 日（水）～10 月 26 日（金）に福島県で行われた第 77 回日本公衆衛生学会学術総会の 1 日目に申し

込みをした。開催日時および場所、予定した内容は以下の通りである。

【日時】

平成 30 年 10 月 24 日（水）18：20～19：50

【場所】

市民交流プラザ会議室 第 3 会議室

【内容】

座長：山縣 然太朗（山梨大学）

演者：山縣 然太朗（山梨大学）

≪第 1 部≫（山縣）

- ・「健やか親子 2 1（第 2 次）の現状と中間評価に向けて」

≪第 2 部≫

- ・ディスカッション
- ・まとめ

C. 結果

1. 参加者

当日の参加者は 32 名であった。以下に参加者の内訳を示す。

【内訳】

- ・都道府県職員：1 名
- ・保健所職員：4 名
- ・市町村職員：1 名
- ・大学関係：20 名
- ・医療機関等：2 名
- ・企業等：4 名

2. 発表内容

日時と場所は予定通りに実施された。内容は、予定から変更し、初めに山縣（山梨大学）が「健やか親子 2 1（第 2 次）」の概要を話し、続いて、本研究班の分担研究者である上原（京都府立医科大学）が「健やか親子 2 1（第 2 次）」の現状について講演した。当日の実施内容の詳細を以下に示す。

≪第 1 部≫

・「健やか親子 2 1（第 2 次）」の概要（山縣）

「健やか親子 2 1」の第 1 次からの流れ及び

概要について、以下の 6 点をポイントに講演した。

- 1) 「健やか親子 2 1」について
- 2) 第 1 次の最終評価の結果
- 3) 「健やか親子 2 1（第 2 次）」：10 年後に目指す姿
- 4) 「健やか親子 2 1（第 2 次）」のポイント：「すべての子どもに」
- 5) 中間評価の情報について
- 6) 「健やか親子 2 1（第 2 次）」後半の新しい指標等

1) 「健やか親子 2 1」について

「健やか親子 2 1」は、21 世紀初頭における母子保健の国民運動計画であり、2001～2014 年（当初は 2010 年までの予定）まで実施された。そのうち、2005 年と 2009 年に中間評価を実施し、2013 年に最終評価を行い、同年に次期計画の策定も実施し、2014 年に自治体の計画策定後、2015 年度から次期計画（第 2 次）が実施された。

第 1 次の課題は、以下の 4 つであった。

1. 思春期の保健対策の強化と健康教育の推進
2. 妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援
3. 小児保健医療水準を維持・向上させるための環境整備
4. 子どもの心の安らかな発達の促進と育児不安の軽減

2) 第 1 次の最終評価の結果

69 指標 74 項目について評価を実施し、全体で約 80%が改善した（目標を達成した＋目標に達していないが改善した）と評価された。

3) 「健やか親子 2 1（第 2 次）」：10 年後に

目指す姿

第2次の10年後に目指す姿を、「すべての子どもが健やかに育つ社会」とし、①日本全国どこで生まれても、一定の質の母子保健サービスが受けられ生命が守られるという地域間で健康格差の解消が必要であるということ、②疾病や障害、経済状態等の個人や家庭環境の違い、多様性を認識した母子保健サービスを展開することが重要であるということ、という2つの方向性について説明した。

- 4) 「健やか親子21（第2次）」のポイント：「すべての子どもに」

すべての子どものために、格差の是正（健康格差、施策の格差）、連携、孤立・孤独の防止についての対策を実施していく必要があるとした。

- 5) 中間評価の情報について

平成31年度に中間評価を迎えるにあたり、指標を最新のものにする必要がある。指標は、人口動態統計や学校保健統計等の既存情報、厚生労働省母子保健課が実施している母子保健課調査（乳幼児健診時に実施する共通問診項目、自治体への調査）、他省庁の調査等を用いている。

- 6) 「健やか親子21（第2次）」後半の新しい指標等

指標には含まれていないが、子どもの健康とICTについてはこれまでも課題となっている。その他の課題としては、問診票の虐待項目に関する検討、母子保健活動における情報の利活用、子育て世代包括支援センター関連、といった課題もこの4年で見えてきている。

・「健やか親子21（第2次）」の現状と中間評価に向けて新たな指標を考える（上原）

「健やか親子21（第2次）」の指標のうち、主な指標についてベースライン値と直近値の比較を示した。

ベースライン時からの推移を観察すると、順調に推移している指標がある一方、変化が見られない等、課題がある指標もあることを説明した。

《第2部》

第1部の講義を受けて、少数人数のグループを作ってもらい、母子保健の現状から、今後、新たに指標に加えた方がよいと思われる課題について、ディスカッションを行った。当日挙げられた課題は以下の通りである。

- 新型タバコ、加熱タバコ、電子タバコ。
- メディアをどう使っているかを見ていくのは重要。
- 健康指標ではなく行動指標で睡眠時間を見ていくのはどうか。
- これからの世の中、プログラミング教育も始まるなど、PCに向かう時間が長くなってしまったため、画面を見たりデジタル機器を扱う時間が長くなってしまったということを前提において、それらから何が起きるのかにもっと焦点を置いた方がよい。
- ビックデータやAIが使いやすいようなデータの取り方や指標を、これが良いというのは難しいかもしれないが今すぐに考え始める時ではないか。
- 正しい情報なのか、正しくないのか、エビデンスが分からなくなっている。ネットには情報があふれ、20年前の著名な先生が書かれた教科書に書かれていることは、現在正しいのかは不明。海外において

新しい論文のエビデンスがでて、それが日本人に当てはまるのか検証する暇もなく次の情報がでる。さらにそれにデマも加わり、早いスピードで情報が流れ、解決するすべもないのが現状。

- 葉酸不足。(先進国で唯一日本は解決できていない)
- 貧困。
- 子どもの健康と ICT の他、親のネットリテラシー、ICT の問題。情報が多すぎて取捨選択できない。保健師の話より芸能人のブログを信じるということも。
- 愛着の障害。子どもと親の関係性をどのように判断していくのか難しく、子どもの特性が原因なのか親の関わり方が原因なのか、または両方なのか、いろいろな側面から諮れるものがあるのではないか。
- 親の乳児に対する態度。応答性を指標化できないか。
- 若いお母さんたちが育児に使っている乳児向けのアプリの乳児にあたえる影響の実態の把握。

D. 考察

今回の自由集会は、「健やか親子 2 1 (第 2 次)」開始後、4 回目の自由集会であった。第 1 部では、「健やか親子 2 1 (第 2 次)」の概要と指標のベースライン値と現状値についての説明を行った。

第 2 部では、第 1 部の内容を踏まえ、現在の母子保健の現状から今後の「健やか親子 2 1 (第 2 次)」の指標に加えていった方がよいと思われる課題を参加者間で議論した。

課題としては、新型タバコやメディア、睡眠、情報過多の現状での情報の選択について等、様々な意見が挙げられた。また、他分野の参加者であったことから、多方面からの課題となる

意見が挙げられ、大変有意義な会となった。

今回の自由集会の内容を厚生労働省母子保健課とも情報共有し、中間評価時の一助となることを期待する。

E. 結論

本年度の自由集会は、第 1 部は「健やか親子 2 1 (第 2 次)」の概要と指標のベースライン値および現状値についての講演、第 2 部は中間評価時に新たに加えた方がよいと思われる課題についてのディスカッション、と 2 部構成で実施した。第 2 部のディスカッションでは、行政の方や大学関係者、企業等、様々な分野の参加者による現在の母子保健分野における課題について議論し、挙げてもらった。その結果、新型タバコやメディア、睡眠、情報過多の現状での情報の選択について等、様々な意見が挙げられた。今回の会は新しい課題に関する検討にとって有益な会となったと考える。

F. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし